

2005年1月25日 ニューヨーク時間正午・解禁

2005年の世界経済は、ドルと世界的な不均衡の調整次第である

(国連、ニューヨーク1月25日) 世界的な経済の不均衡と、特に米国の貿易赤字は、多くの予想に反し米ドルの急速な下落によって是正されないだろうとの警告を国連は今日発した。それを除けば、2005年初頭の世界経済予測は上向きであるとしている。

国連によると、2004年に特に発展途上国で順調だった景気回復のサイクルはピークに達しつつある。

今日ニューヨークで公表された『[World Economic Situation and Prospects 2005](#)

(WESP 05)』によると、「ドルの下落だけでは、世界経済の不均衡を持続可能な状態へ回復することは容易ではない。したがって、世界経済に悪影響を与える突発的な修正が起こる可能性を否定できない。」国連レポートは、累積米国貿易赤字の加速を示す11月の報告に続くものである。

ドル下落は、世界経済の不均衡を是正していない。なぜならアメリカはドルという世界の主要通貨である自国の通貨で負債を持つというユニークな立場にあるからである。ドルの下落は、米国の資産を所有する債権者の資産価値の減少を招き、富の損失をもたらす。下落は世界的な需要を低下させ、安価なドルによって富が減少した結果、競争力が高まった米国の輸出業者への利益を減少させてしまう。

本質的に世界的な経済の不均衡は、アメリカの消費と負債と、米国貿易相手国の膨らむ黒字の中で拡大する。通貨の調整、特に二国間の通貨操作は問題の解決にはならないだろう。

「アメリカの財政赤字の修正と個人貯蓄率の改善が不可欠に思えるが、そのような縮小効果は、他での拡大措置によって補正されるべきである。」と、同レポート(WESP 05)は伝えている。

したがって、世界経済の不均衡は世界的な調整を必要としており、日本、西ヨーロッパやいくつかのアジアの発展途上国のような、多額の経常黒字を抱えた国や地域が国内投資の増加を通じて、国内需要を喚起することが大切である。さらに12月の津波被害に対する再建では、インド洋環太平洋諸国への大規模投資を引き起こす機会を与えるだろう。

2005年の世界経済は、以下の通り予想される。

- 2004年に4%増加した世界総生産は、2005年には約3.25%上昇すると予測されている。ただしドルの下落と、アメリカの貿易赤字に伴う前述の影響は含まれていない。

- 中国と米国の経済が、共に世界成長を支えている — 急成長する中国の原材料に対する需要が、アフリカやラテンアメリカといった一次産品を輸出する国々の市場を改善している一方で、米国の消費は世界の製造業を刺激している。
- 中国の需要と高い成長を維持している世界経済は、一次産品価格の長期にわたる下落を転じさせた。原油を除く一次産品価格は、ドルの持続的な下落にもかかわらず、2003年の11%、2002年の12%近くの上昇に続き、2004年にも10%上昇した。しかしこの回復でさえ原油を除く一次産品の平均米ドル価格は、2004年末で、1980年の水準よりも依然25%下回っている。
- 一次産品市場の活況によって発展途上国の2004年平均成長率は、5.5%で20年間で最も高かった。社会主義経済から移行した国々の成長率は1990年代初頭以来、最も高かった。
- 2004年には4.5%の成長を記録したアフリカは、一次産品市場の活況に加えて、農業生産の続伸、政局安定、および開発援助の増加によりあおられた。国連によると、「2005年も同様の状況が続くために、2004年と同じ結果になると予想される」。しかしながら、国連のミレニアム開発目標の達成に必要なとされる7%以上の成長を実現した国は、たった6カ国にとどまっており、他の43カ国はいまだにその水準を下回ったままである。
- 原油価格は、年末にかけて若干低下したものの、2004年前半には50%も上昇した。価格の緩和は、今年も続くと予想される。その理由として、昨年の価格上昇は需要の高騰にその原因が求められ、過去に起こった石油ショックのときのような供給不足が原因ではなかった。したがって市場の調整はよりスムーズに行われやすい。

『World Economic and Situation and Prospects 2005』は、国連経済社会関係局(UN DESA)と国連貿易開発会議(UNCTAD)が、国連地域委員会との共同で毎年初頭に公表されている。

詳細は、国連広報部 開発課

Tim Wall 電話：1-212-963-5851 Email: wallt@un.org

Ellen McGuffie 電話：1-212-963-0499 Email: mcguffie@un.org まで。